

平和運動センター通信 原水禁ヒロシマニュース

■発行：広島県平和運動センター

原水爆禁止広島県協議会（広島県原水禁）

■〒733-0013 広島市西区横川新町7-22 自治労会館 1階

■Tel:082-503-5855 FAX:082-294-4555

■E-mail:h-heiwa@chive.ocn.ne.jp

■広島県原水禁 ホームページ <http://www.hiroshimaken-gensuikin.org/>

■ブログ：<http://kokoro2016.cocolog-nifty.com/shinkokoro/>

ー子どもや孫たちに、戦争も核もない、美しい地球を！ー

№.286

2026年

10月号

(10月14日)

発行責任者

大瀬敬昭

(事務局長)

さようなら原発全国集会に 4000 人

さようなら原発 1000 万人アクションが主催する「さようなら原発全国集会」が9月23日、雨が降りしきり肌寒さを感じる中、東京・代々木公園を会場に約4000人が参加し開かれました。

集会では、主催者を代表してルポライターの鎌田慧さんがあいさつした後、以下4つの課題でリリーススピーチがされました。①南鳥島が候補地とされた最終処分場建設問題②気候変動問題③再生可能エネルギー問題④福島原発事故以降の問題。



メインスピーチはピースボート共同代表の畠山澄子さん。畠山さんは能登半島地震で珠洲市の原発建設予定地だった地域の道路が遮断されて孤立したことを取り上げ、改め

《今後の主な予定》

- | | |
|-----------|--|
| 10月18日(日) | 第19回中国人受難者を追悼し平和と友好を祈念する集い
(安芸太田町坪野 安野発電所前) |
| 10月19～20日 | 部落解放研究第59回全国集会(福山市・リーデンローズ他) |
| 10月27日(火) | 広島県平和運動センター第32回総会(自治労会館) |
| 10月29日(木) | 狭山市民集会(日本消防会館ホール) |
| 11月3日(火) | 憲法のつどい・ヒロシマ2026(弁護士会館) |
| 11月8～10日 | 第63回護憲大会(福岡県久留米市) |
| 11月10日(火) | 朝鮮学校チャリティー金剛山歌劇団公演(アステールプラザ) |

て避難の難しさを含めた原発の危険性を訴えました。また、ネパールでの土石流の発生やアメリカとイスラエルによるイランへの攻撃などを取り上げ「気候危機、原発、核兵器、戦争、これらを別々の問題と考えることはできない」として、その理由を「持続可能がないこと、必ず不正義、不条理があること。一体的なものとして解決に向けての声をあげなくてはならない」と指摘しました。その上で、「危険や犠牲を誰かに押しつけるのではなく、次の世代が安心して暮らせる未来を作りたい」と声を上げました。

参加者は集会終了後、渋谷コース・原宿コースの 2 コースに分かれてパレードを行いました。

軍事力強化に反対し全国集会 “平和をつなぐ” 署名への協力求める

「さようなら原発全国集会」が行われた代々木公園では、集会に先立ち平和フォーラムが主催する、「進む軍事力強化に反対する全国集会」も開催されました。

平和フォーラムはこの夏、全国 8 ブロックで軍事力



の強化に反対する集会を行っており、その集約の場として開かれたものです。

集会では、中国ブロックから鳥越ブロック議長（岡山）が壇上に立ち、6 月に福山市で開かれた中国ブロック集会について発言。その際報告された島根県雲南市に建設計画が持ち上がっている自衛隊の弾薬庫建設に反対する取り組み等を紹介し、軍事力の強化があらゆるところで進んでいることを報告しました。

集会では改めて、すでに全国での取り組みが始まっている「いのちを見つめ 平和をつなぐ、憲法理念の実現を求める全国署名」への取り組みを改めて強めていくことを呼びかけました。

第 51 回平和友好祭典を開催

青年・女性 61 人が参加

広島県青年女性平和友好祭実行委員会は、9 月 12～13 日、県内 5 地区、3 団体、61 人が参加し、第 45 回平和友好祭典を尾道市ふれあいの里で開催しました。

開会あいさつで辻実行委員長（私鉄）は「ロシア・ウクライナの状況をはじめとして世界は混迷の中にある」と戦火が止まない世界の現状に触れるとともに、核兵器をめぐる現状にも「深刻な状況にある」と指摘。その上で、「平和友好祭典を通して情勢を確認するとともに、お互いに核兵器廃絶に何ができるか考えあっていきたい。そのことが

平和に向けて歩みを進める一歩になると思う」とあいさつしました。

その後実行委員会から 7 月 6 日から 24 日の間県内を走り継いだ「第 51 回反核平和の火リレー」の走破報告がされ、各地区での実施協力に感謝を伝えるとともに、次年度に向けた各地区からの要望や対策について提起がされました。

初日の講演では前広島市長の秋葉忠利さんから『2045 年までに核廃絶を一私たちに何ができるかー』と題してお話を受けました。

秋葉さんはその中で、「2045 年には被爆 100 年となるが、その時には被爆者はわずかしかなかった



ていない状況になる」と被爆者の高齢化が否応なく進む現実に触れるとともに、「被爆者は核抑止力である。3 度目の核使用がなされなかったのは被爆者が 3 度目が無いよう訴えてきたから」と被爆者の果たしてきた役割の重要性を指摘し、「被爆者がいなくなってしまうたら忘れられたように核兵器が使用され、地球は滅んでしまう」と警鐘を鳴らしました。その上で、「これからの取り組みはお話を聞いている若い人に託すしかない。ぜひみんなで取り組みをすすめていただきたい」と被爆者にかわって、その思いを引継ぐ役割が青年にあることを指摘し、「取り組みには目標が必要。中間目標として 2035 年核兵器先制不使用の実現を目指す。不可能ではない」と激励と提起を受けました。

講演後には毎年恒例のスポーツ祭典としてビーチボールバレーで汗を流して交流し、競い合いました。各リーグで「福山 B」と「神石」チームが優勝しました。

2 日目は三原市原爆被害者の会の助光敦子さんから、原子爆弾の説明、被爆の状況、なぜ広島に原爆が投下されたのか等についてスライドを用いて説明をうけました。その後被爆者の隅田正子さんから、お姉さんの被爆体験をもとに講話がされました。

隅田さんの母親は、隅田さんを妊娠していたことから、広瀬町から海田に家族で疎開していました。被爆時には、隅田さんが生まれて 2 ヶ月で隅田さんの記憶はありません。お姉さんの話によると、海田から見たのは「見たことのないキノコ雲」。家族はその後「放射能の知識なく広島市に入り被爆の影響を受けた」ということです。

その後、隅田さんの母親は白血病を発症しますが、正子さんを身ごもっていたことで疎開していた自分だけが生き残ってしまったことや、被爆の影響を受けることになったことを後悔していたということです。隅田さんは今の世界の戦争を見る中で、「お姉さんの語ってきた被爆体験を受け継ぎ、少しでも戦争の無いよう話をしていきたい」と語られました。

その後 7 つの分散会に分かれて、1 日目 2 日目の講演の感想や、核廃絶のためどのような取り組みを行っていくか議論しました。参加者からは「秋葉さんの『被爆者が核抑止力だ』という話に共感した」「核兵器の先制不使用は言葉だけでも大きな重みがある」「周りの人に話をしていくことで世界を動かしていく」などお互いに話すことができました。

集会の最後に全員で「平和の火よ走れ」を合唱し集会を終了しました。

憲法のつどい・ヒロシマ 2026

憲法と人権

壊させてはならない、侵してはならない、今、みんなで守るべきもの

11月3日(火・祝)14:00~16:00

広島弁護士会館ホール

参加費 500円 学生・障がい者は無料



講師紹介：伊藤 真(いとう まこと)
伊藤塾塾長、法学館憲法研究所所長、弁護士
◎プロフィール／●1981年司法試験合格後、受験指導開始。1995年に憲法価値を実現できる真の法律家・行政官を育成するため伊藤塾を開塾し、40年以上法教育に取り組む。日本国憲法の理念を伝える伝道師として講演・執筆活動に取り組む。●弁護士として一人一票実現訴訟、安保法制違憲訴訟、角川人質司法違憲訴訟などの憲法訴訟にも取り組む。●日弁連憲法問題対策副本部長、安保法制違憲訴訟全国ネットワーク代表。●著書多数

講師：伊藤 真 弁護士

- 戦後最悪の高市政権の暴走が止まりません。暴走トランプへの追従・迎合をテコに、「戦争する国」への、大軍拡と改憲の危機が加速しています。
- しかし、日本も捨てたものじゃありません。今までためらっていた人々が、「戦争止めてくるわ」と、ペンライト集会、1人アピール、新しい行動が始まっています。
- 激突の焦点は憲法です。81年間、大事に育ててきた憲法と人権を守るために、今、何ができるか、一緒に考える「憲法集会」です。

【会場案内】 ●広島弁護士会館 広島市中区八丁堀2-73 082-228-0230

●他にも、県内各地にサテライト会場を設置します。



■主催・呼びかけ 戦争させない・9条壊すな！ヒロシマ総がかり行動実行委員会 2026年9月1日

主な構成団体：戦争させないヒロシマ1000人委員会／広島県9条の会ネットワーク／秘密法廃止！広島ネットワーク／憲法と平和を守る広島共同センター

【連絡・問合せ先】730-0805 広島市中区十日市町1-5-5坪池ビル2F日本ジャーナリスト会議広島支部内 問い合わせ電話番号 090-9060-1809(藤元)

